

新1年生、在宅、待ち遠しいさくら(2013.4.10)

四月になりました。例年のことながら元気いっぱいの新一年生の微笑ましい通学姿がみられます。一生懸命に体を動かし、保育園や幼稚園では得られなかった知識や社会の仕組み等を身につけて欲しいものです。もちろん交通ルールをきちんと守り、そのことが自分自身の安心・安全に直結することを、第一に理解して欲しい事です。

周りのみんなで、その様な事を教えてあげましょう。

在宅医療の取り組みは、自分の人生の最後を何処で迎えるかという事も含めて、家族全員で話し合ひましょう。

もちろん医療機関に入院して治療を続ける必要のある方はきちんと治療を受けなければなりません、高齢になり、それなりの肉体的変化[世間ではこのことを老化と言う]になっている場合は、医療機関での入院治療は要らない訳で、要るのは自宅での生活の中で自分自身の趣味を持つとか、話し相手などを近くに求める事等になるでしょう。

そう考えると、必ずしも家庭だけではなく施設であっても生活する場が自分に相応しい場所であるならば良い訳です。

ゆったりとくつろげる場が用意されることが何よりの条件になることでしょう。これもまた、周りの人々の理解と努力でしょうか？

桜便りが、東京あたりでは例年より二週間も早く発信されたようです。まさか尾花沢で同じような状態になるとは思われませんが、とんでもない気候の変化が出てくる時勢ですので、何が起こるか分からないというのが本音でしょうか？

野鳥による『つぼみ食い』が無ければ、良い花見が出来るでしょうから、楽しみに待ちましょう。

良く咲くことを祈ってカンパニー、咲いたのを祝ってまたまたカンパニー、位までが、今月の仕草でしょうか。あまり“うま酒”を飲みすぎないように、良いあんばいにしましょう。

今月号の原稿作成が遅れてしまい、お届けするのが遅くなりました事を、お詫びいたします。

院長 清治 邦夫